

新刊

児童書

ぼくらはもりのダンゴムシ (3~5歳向け)

まつおか たつひで 作

(ぽるぷ出版)

暗くなると動き出すダンゴムシ。夜のあいだ、どこでなにをしているの?丸くなるのはどんなとき?あかちゃんは どうやって生まれるの?ダンゴムシのひみつをこっそり教えてくれる絵本。



一般書

「本読み」の民俗誌

川島 秀一 著 (勉誠出版)

村人が集まる機会に、独特の節回しで本を読んで聞かせる人びと「ホンヨミ」。地域社会において「本」「読むこと」「書くこと」はどのような意味を持っていたのか。ホンヨミに触れてきた人びとへの取材から民俗社会を描き出す。



一般書

日本鳥類図譜

久保 敬親 写真 樋口 広芳 監修 (山と溪谷社)

写真家・久保敬親が約50年にわたって日本各地で撮影した野鳥写真を集大成。北海道から南西諸島まで、生息環境別に約200種類の野鳥を、解説つきで掲載する。「鳥を守る仕組み」などのコラムも収録。



一般書

あめつちのうた

朝倉 宏景 著 (講談社)

運動が苦手な雨宮大地は、甲子園球場の整備を請け負う阪神園芸へと入社するが、仕事は失敗続き。自分は本当に一人前になれるのだろうか?仲間たちと関わり合いながら、自らの弱い心を掘り起こすように土へ向き合っていく。



豊山俳句クラブ

青山克己 選

サイフォンのいつもの香り初夏の朝

東海林宗義

田一枚植えて男は戻りけり

杉浦みどり

宿下駄の鼻緒の湿り走り梅雨

岡島 齋

鮎鮎を好きといふ人一人去り

青山とも子

父の庭紫陽花咲きて空低し

水野眞弓

故郷の植田につづく橋一つ

黒澤裕子

ほうたるを追って小さな橋わたる

高木須磨子

咲き競ふ花あぢさいや空青し

山下敬太

父の日の父の遺した黒メガネ

田村多喜子

山桜桃つどふけなげな親子鳥

坪井昭子

青年の漬けし梅酒の一夜かな

谷崎 琴

髪切るは区切りのひとつ沙羅の花

坪井径子

勝手口なほ仄暗き夏至の家

青山克己

豊山歌壇

水野笑子 選

自然をも克服せしと人類は総ての行ひ省みるべし

山田 米

出張にと子は旅立ちぬ目覚めても声

が聞こえぬ暮らしがつつく

メモ帳の予定は全て消されあてウイ

ルス旋風衰ふことなし

中澤芳子

児らの為に手編みは本にて学びしと

ふ明治生れの母の健気さ

荒川昌枝

窓を明け新緑見上げて深呼吸空気の

うまさ全身に滲みぬ

湯上りの子をふんはりと抱きとめて

孫はほほ笑む幸せさくに

柴田満枝

公共の施設の休館今月もコロナの終

息何時になるかと

たつぷりと墨ふくませて太太と「日

本」と書きし舞台の遙か

小出寿枝

木も花も躍動の季温度差のあれども

自然は動き激しく

関はりも無しと自然はウイルスの蔓

延るこの世を初夏に染めゆく

一柳千鶴子

字を書かぬ日とて無けれど忘るる字

多くして何の日記といふか

水野笑子

編集後記

新型コロナウイルス感染症による販売不振のため、収穫時期を迎えても出荷することができず、ダメになっていく農産物や海産物が日本全国にあふれている。三重県では養殖の鯛が売れないため、その餌代で養殖業者が苦しんでいるというテレビニュースが放送された▼山形県河北町から届いたサクラランボも同じ理由でダメになっていくところを河北町が経済対策で買い上げて、本町に贈ったものである。農家の方が丹精込めて育てたサクラランボが誰のためでもなく、ただただ腐り落ちていくところを想像するのはあまりにも寂しい▼河北町とは災害時にお互いに援助しあう協定を結んでおり、本町が災害に遭ったときに援助していただくことになっている。運が上向くと人は自然と集まり、運が下向きになると離れていくものである。友人とは、苦しいときに現れて助けてくれる者のことをいう。河北町と本町が友人として共に助け合っていくために、町民の皆様には河北町のサクラランボを食べることで美味しくご支援していただきますようお願いしたい。